

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372300980		
法人名	医療法人 社団 井上会		
事業所名	みんなの光		
所在地	熊本市南区城南町今吉野806-1		
自己評価作成日	平成30年 1月7日	評価結果市町村受理日	平成30年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41-5
訪問調査日	平成30年2月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームから眺める大樹の桜、毎年たくさんの花をつけては、散らしていきます。また、裏庭には、晩白柚やブルーベリーが実をつけ四季を身近に感じることが出来ます。狭いながらも9人の方がゆっくりと穏やかに過ごしています。食事は、その方に合った形態を提供できます。入居の際の一時金は、不要で、毎月の利用料金も他施設に比べ安く設定しています。また、同敷地内に母体の病院があるので、急病時には早めに診察ができ、治療を速やかに受けることが出来ます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高台の広い敷地に関連事業の老健・病院とともにグループホーム「みんなの光」がある。リビングの窓からは、遠くの間々や近くの田園風景が見渡せ、開放感があり、利用者は職員に支えられながら自分らしい暮らしを営んでいる。調理経験豊富な専従職員による手作り料理は利用者の嗜好も反映され、利用者の楽しみと健康保持に繋がられている。家族の面会時には小鉢を出して、居心地よく過ごしてもらえるよう笑顔でもてなすなど、家族とのコミュニケーションが図られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目に届く所に「理念」を掲げ、申し送り時や勉強時に方針や目標を話し合い、職員に理解してもらい、それに沿ったサービスを提供している。	「家庭的な雰囲気の中で、一人ひとりを尊重し、地域や家族とも触れ合いながら温もりのある暮らしを支える」という理念が作成されている。管理者は理念に裏打ちされた、個々のニーズに合ったケアを目指しているが、職員への浸透が不十分と感じており、実践の場でその都度指導や話し合いを行い、理念の共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員としては、毎年法人全体で小学生・園児の慰問を受け入れている。また、ホームの東側は、住宅地のため、洗濯物を干すときなどは、積極的に挨拶をおこなっている。	併設事業所の行事である夏祭り・そうめん流し・ボランティアによる踊り・演奏会に出かけるなど、地域住民との触れ合いは行われているが、ホーム単独では建物の立地上、積極的な交流はできにくい状況である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症への偏見や差別をなくすことの重要性を認識し、運営推進会議に地元のお世話される方や近隣の自治会長さん達に出席を呼びかけご理解いただき地域に貢献出来るよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開いている。家族、自治会長、民生委員、ご家族の方に出席していただき、近況報告やサービスの実践等について報告している。さらにご意見、要望をお聞きして話し合いを行い、ご希望に沿ったサービスの提供ができるよう努めている。	運営推進会議は、ホーム運営にあたっての実情を報告し、問題点等を出して外部からの意見や提案を聞く場として2か月に一度開催されている。自治会長からは地域行事の案内、民生委員からは避難訓練への協力申し出があるなど、ホーム運営への協力的な姿勢が感じられた。	現在、地域からの委員は民生委員と自治会長の2名のみであり、地域の意見を運営に活かしていくために、更なる外部委員の開拓が望まれる。会議では、ホームとして地域の協力を得たいことなどの課題を議題として取り上げ検討するなど、より充実した会議とするための工夫が期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類提出の際は、持参するようにして挨拶できるようにしている。	介護認定の更新書類の持参・外部評価票の郵送等も行われているが、ホームとして行政に積極的に働きかけ、交流を持つような協力関係までには至っていないように思われる。	ホームの実情やサービスの取組などを積極的に包括支援センターにも伝え、相互理解を深め、利用者還元されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束マニュアルの具体的な行為を理解しケアを実践している。玄関の施錠は夜間のみで、居室のカギも昼夜とわず開放していただいている。言葉による拘束にも日頃から十分注意を払っている。	法人内研修で、身体拘束の具体的な行為等を学んでいるが、その弊害の認識は全職員に理解されるまでには至っていないように伺えた。特に、言葉による抑制をなくすには、気づきをお互いに注意しあう環境が重要と思われる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や院内研修で学び、職員一人ひとりが注意するよう心がけている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	母体法人の支援相談委員から制度について学び、利用者の状況を話し合い、必要性の有無を話し合っている。現在はおられません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書にサイン、印をいただく際必ず内容を詳しく説明し同意を得ることを基本としている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的な運営推進会議のほか、家族来居時に入居様と会われたあと、事務所で近況報告する際、意見・要望もお聞きしている。また、苦情相談窓口も設けており、ご意見箱も設置している。	管理者は、全入居者の置かれた背景と、本人・家族との関係を把握しており、家族の話に真摯に耳を傾け一緒に本人を支え、家族の安心に繋げている。毎月の利用料金の支払いや紙おむつ・おやつを持参することで、家族の面会も多く、居心地良く過ごして貰えるよう笑顔で歓迎している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申送りで、自由に発言できる雰囲気作りをしており、実態を把握し提案を受け入れるように心掛けている。	デジタル関係が得意な職員・営繕的な仕事を任せられる職員等、得意分野を活かす事で運営がスムーズにいくような取組みが見られた。毎日記入している「申し送りノート」には小さな気づきや提案が自由に記載されており、ケアプラン作成にも役立っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務年数に違いがあるが、家庭的な雰囲気をモットーとしており、職員に受け継がれている。やりがいのある職場作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修やフォローアップ研修などに参加したり、院内での介護研修等に参加している。グループホーム内においても、その都度実技指導等を行いレベルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や講演会などに積極的に参加し、他ホームの職員と情報交換を行い、お互いにサービスの向上を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	意思の疎通が難しいときは、しぐさや表情を観察し、傾聴することで安心感を得てもらい、本人の意思を引き出せるよう努めている。日頃から話しやすい雰囲気作りに気をくばっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っておられる事や要望等世間話や相談に気軽に相談していただけるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なときは、併設の病院や老健施設などの紹介をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	衣替えの時期には、一緒に衣類の整理をし、また、洗濯物たたみや、収納時にも一緒に行い親近感や信頼感を持ってもらえるよう努めている。レクの時間には、歌、体操、雑談と共有の時間をつくっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等でいろいろな相談事や提案をお話しできるような努力をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで送ってきた生活がスムーズに引き続き出来るよう、利用者様や家族からいままでの生活環境を聞き取り、把握した情報は、職員間で共有し、それが生かされるように努めている。	多くの利用者が入居前に参拝していた馴染みの「木原不動尊」への初詣は欠かさず、利用者に喜ばれている。また、家族の協力を得て墓参りの支援や、「訪問理美容」を利用することで、新たな馴染みの関係構築が図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者おひとりお一人の時間、スペースを大事にしながら、リビングでの時間をみんなですごし、気の合った方との時間を大事に過ごしていただいている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設病院への入院時は必ずお見舞いに行き不足のないよう気を使い、家族とも電話で状態の報告等連絡をとりあっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や思いを出来る限り傾聴し、それに添うように努めている。困難な場合には、家族の協力をお願いし本人の思いなどを引き出す工夫に努めている。	利用者一人ひとりの背景に配慮しながら、家族に電話したい・カラオケに行きたい等の要望に応じている。又、県外で暮らしていた頃の思い出話などを引き出す工夫をすることで、本人の満足に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話や、家族からいろいろ情報を収集したり、また、居宅のケアマネジャーから今までの生活の情報を得、これまでの生活、暮らしぶりの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録(カルテ)の内容を充実し、活用、申し送りなどでめれなく通達して、職員全員が情報を共有できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員で日頃気づいた事や感じたこと、また家族から聞いた事などを話し合い、ケアプランに家族の要望等を反映するよう努めている。	担当職員・ケアマネ・家族の意見や要望と、月2回の外来受診で得た医師の情報を基に、本人本位のケアプランを作成している。プランは3か月・6か月毎に見直しを行い、現状に即した無理のない支援に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申送り時に職員間で個別的に話し合い、確認し介護やケアプランの見直しを3ヶ月毎、6ヶ月毎行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の病院や老健施設と連携し、行事を共同で行うなど多機能性を生かすよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員、警察、消防、ボランティア、地域包括支援センターとの情報交換などで得た情報を、支援に生かすよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設の病院をかかりつけ医院とし、総合的医療を受けることができ、急変時や夜間にも対応できることで家族の信頼、安心感を得ている。	全利用者が併設の病院をかかりつけ医としており、定期受診には職員が同行し、健康管理を図っている。また、専門科受診は医師の紹介状持参で家族が付き添っており、適切な医療支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームには、看護師が常勤している。介護職とは、報告・連絡・相談に努め、必要時には、併設病院に受診出来るよう外来看護師とも連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、病院関係者と診療情報や生活情報の交換をおこなっている。また、母体医療法人病院の外来看護師は、日頃より入居者をよく把握されていて心強い。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化された場合は、入居時に本人・家族に契約書にて説明の通り母体法人の病院で対応している。ホームにおいては、看取りは行っていない。	入居時、「重度化した場合における対応にかかる指針」で説明し、ホームでは看取りをしない事の上承を得ている。ただし、併設の病院から入居の場合は、「延命措置」についての文書を取り交わし、家族の意向を明らかにしている。看取り期になって病院に行く利用者に「ホームに戻って来られますように」という優しい気持ちで送り出している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	送りやケアカンファ、ホームの勉強会において、急変時の対応の仕方を病状に合わせ把握しあっている。対応マニュアルも作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体で年2回消防訓練をし、職員の協力体制を図っている。	年2回の防災訓練では、一回は消防署立ち合いのもと、夜間想定で避難訓練を実施している。「職員連絡網」を使って通報から職員が現場に来るまでの時間の検証も行われており、職員の防災意識が高められている。	民生委員から訓練時の協力申し出が あり、訓練だけではなく、実際に 災害が発生した場合の連絡方法や支 援の在り方等を運営推進会議のテー マとして取りあげ、地域の協力体制に ついて検討することも期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の保護に努めている。声掛けは、個人名でお呼びしている。入浴、排泄時は、尊厳に留意しはかしくないことのないよう、配慮している。	排泄・入浴等は自立に近い利用者が多い 為、失敗や安全面での支援の在り方につ いて、プライバシーや羞恥心に配慮した声掛け を心がけている。又、家族の面会は基本的に リビングや事務室で行われているが、希望が あれば、居室での面会は可能である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お一人おひとりとコミュニケーションを多くと り、お互いが話しやすい関係を構築し、くつ ろいだ雰囲気のなかで、本人が思いを訴え たり自己決定ができるようつとめている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりの思いや体調・環境を配慮 し、個別的な支援をおこなっている。行事、 レクの参加は入居者の意思を尊重してい る。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時は、本人の希望を聞いて洋 服を選んでいる。毎木曜日に理美容のサー ビスを本人・家族の希望でご利用されてい る。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	井上農園で育った野菜を調理し、摂取能力 にあった形態を提供している。調理の下準 備でニンジン・大根の皮むき、配膳の準備、 テーブル拭きをお願いしている。	調理専門の職員による手作り料理が提供さ れている。利用者と一緒に同じ物を食べる事 で、食の進み具合や嗜好を確認してメニュー に反映させている。食後は、利用者各自が自 分の食器が乗ったお盆を台所まで運んだり、 テーブルを拭く等、出来ることに参加する姿 が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態は、おひとりお一人に合わせて いる。水分、食事の摂取量のチェックをして いて、体重測定は月に1回以上である。夜 間にも水分補給を介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、能力に合った口腔ケアをされている。就寝前の口腔ケアは、必ずイソジンゲル使用をお願いしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンがそれぞれ違われるので、時間で声掛け、誘導、介助をおこなっている。排泄の自立に向け、排泄動作は、できるところは、してもらっている。	自立の人が多いが、布パンツではなく、紙パンツのみ、又は紙パンツとパット併用で対応している。夜間のポータブルトイレ使用も無く、定期的にトイレに誘導し、排泄後は水分補給を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の確認を朝・夕の申送り時に行っている。野菜中心の献立に配慮したり、水分を多めに取ってもらったり、体を動かすような体操を指導している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	バイタルサインを確認し、週2回以上の入浴を勧めている。個浴を基本にしており、プライバシーに配慮している。	個浴であるが浴槽が広い為、職員の見守りを必要としている。衣類の着脱も、職員は出来るだけ見守りに徹し、自立支援が図られている。冬場は浴室を温めた後、晩白柚やゆず湯にして入浴の楽しみに繋げている。お湯はかけ流しで、清潔保持にも配慮が見られた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息、テレビ鑑賞、雑談など、自由に過ごしてもらっている。居室の電灯の明るさ、室温にも考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	外来受診をした後、処方されると薬剤師から薬の名前、作用、副作用などの情報をもらい、スタッフにつたえている。服用時は、服薬確認を必ず行っている。また、毎日状態確認を行い、早期異常発見に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎朝、居室の掃除・ゴミ捨てなど出来る力を発揮してもらっている。玄関先の植木の水やり、草取りや動物の鹿を見にいたり、温室の花、野菜を取りに職員と一緒に楽しまれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	併設施設の行事に参加したり、敷地内の菜園や鹿小屋に行ったり、天気の良い日には、日向ぼっこをされている。家族面会時に一緒に外出したり、盆正月の外出・外泊などの機会作りに努めている。	併設施設の夏祭りへの外出は、入居者の楽しみとなっている。同敷地内にある動物園には鹿やにわとりが飼育されていて、散歩がてら出かける事もある。桜の季節には、ひなたぼっこしながらの敷地内での桜見物も楽しみである。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族が預り金として置いて行かれていますので、ノートで管理し、必要なお金を出している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、先方の迷惑にならない時間帯に電話を取次いでいる。耳の悪い方は、メモ紙に書いていただき面会時に手渡しすることある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの周りの桜の花をながめ、テーブルを出してお茶したりして春の日を楽しまわれている。また、秋には、ススキを、さらにばらの花を切り花にして飾っている。	高台にあるリビングの窓からは、山々や田園が眺められる。二人掛けのテーブルが、利用者の居場所であり、ラジオ体操やレクリエーションを楽しみ、食事もみんなと一緒に摂る日常が流れている。居室に続く廊下の壁には貼り絵等、利用者の作品が貼られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	数カ月に一度テーブルを並べ替えて変化をつけ全体が見えるようにし、みなさんに声掛けしやすいよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまで身近に置かれていた愛着のある家具などを持ち込み、ある人は、位牌を持参されている。また、亡くなったご主人様と一緒に写った写真を持ち込まれている。	奥行のある大きな押入れの扉を取り払い、仏壇が置かれた居室や、テレビ・整理ダンスが置かれた居室もあり、それぞれ自分の部屋として落ち着きを感じられた。	各居室の広い出窓には何も置かれておらず、家族の協力を得てぬいぐるみや鉢植えの花・家族の写真立等を飾るなど、より温かみのある居室づくりへの工夫が期待される。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物をたたんだり、ほうきを渡して一緒に掃除をお願いしている。また下膳、テーブル拭きなど出来るかぎり、自立した生活が出来るよう工夫している。		